

## 第5回 EST普及推進フォーラム

# 震災後に求められる低炭素交通システム

---

---

2012年2月22日

(株)みちのりホールディングス

(福島交通、茨城交通、岩手県北自動車)

代表取締役 松本 順



経営共創基盤

100%出資

みちのり  
ホールディングス

代表取締役 松本順

100%出資

みちのりグループ

福島交通  
グループ

茨城交通  
グループ

岩手県北自動車  
グループ

- 福島交通株式会社
- 福交整備株式会社
- 福島交通観光株式会社
- 株式会社フクコード

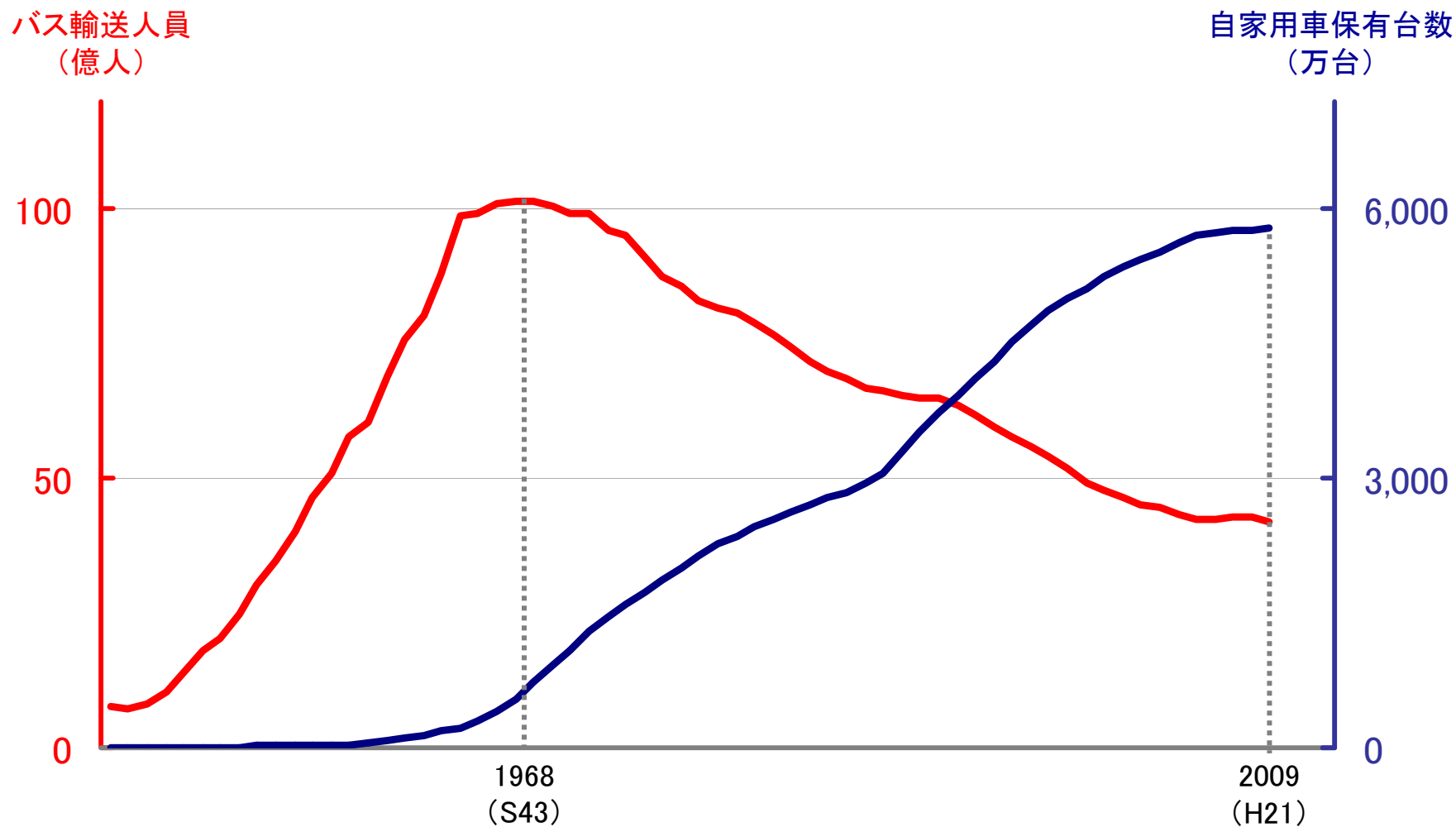
- 茨城交通株式会社
- 茨交自動車整備株式会社
- 茨城オート株式会社

- 岩手県北自動車株式会社
- 岩手県北観光株式会社
- 株式会社浄土ヶ浜パークホテル

合計

|          |       |     |     |     |
|----------|-------|-----|-----|-----|
| 従業員数(人)  | 2,130 | 870 | 770 | 490 |
| 保有車両数(台) | 1,209 | 548 | 450 | 211 |

# 転換期を迎えたバス事業



出所：(社)日本バス協会「日本のバス事業(2009年版)」、(財)自動車検査登録情報協会「自動車保有台数の推移」より作成

## みちのりグループの支援

### ■ 緊急の協力要請:

- 震災当日(3月11日)、国土交通省より、原発周辺の多数の住民が退避するためのバス輸送を要請される
- 翌12日早朝にも追加で協力要請
- 更に13日以降も、福島県災害対策本部から協力要請続く

### ■ 現場の混乱:

- 当初の行き先が急遽変更になったり、配車場所で長時間待たされることが頻発。或いは、配車場所まで行き、輸送すべき人がいない、輸送先として指定された病院側で受け入れを拒否される、道路状況を把握せずに輸送指示がなされた結果、配車指示場所に到達できないなどの事態が発生
- 重症患者の退避は、運転士が重病人の乗降を担ったり、医師の付添のないケースもあった

### ■ 混乱の中での対応:

- 福島交通と茨城交通は、互いに連携をとりながら、こうした困難な状況に不眠不休で対処していった
- 震災直後の10日間だけで、延べ128台(福島:74台、茨城:54台)を出動させ、5,000名程度の住民退避に尽力した



出所: NHK Bizスポ(2011年3月30日)



大熊町民全員町外退避へ  
出所: Asahi.com(2011年3月12日)

# 震災対応 激甚被災地等支援のための運賃優遇措置

|            | 路線                   | 特別運賃   | 概要   |
|------------|----------------------|--------|--|
| 岩手県北<br>バス | 山田～宮古                | 上限500円 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 通常の最高運賃810円</li> <li>▪ 3/18～31の期間限定</li> </ul>    |
|            | 大槌～山田                | 無料     | <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 岩手県交通の大槌-釜石線運休のため新規設定(3/20～31)</li> </ul>         |
| 茨城交通       | 路線バス全線<br>(県庁シャトル除く) | 上限200円 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 通常の最高運賃1,200円</li> <li>▪ 3/15～21の1週間限定</li> </ul> |



出所: NHK Bizスポ(2011年3月30日)



出所: NHK Bizスポ(2011年3月30日)

# 震災対応 一般路線と高速バスの復旧・緊急支援路線新設

## ◆ 通信途絶・従業員も被災した中での急速な復旧

### みちのりグループの支援

#### ■ 新幹線・在来線の代替の輸送手段として、バスが大きく寄与

|      | 既存路線の復旧  | 緊急支援のための新設  |
|------|--|---|
| 高速バス | <p>&lt;福島交通&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>震災3日後の福島⇄郡山の復旧を皮切りに、8日後に殆どの路線を復旧</li> <li>福島⇄郡山ではピーク時には平常時の約16倍の日輸送</li> </ul> <p>&lt;岩手県北&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>震災5日後に、盛岡と激甚被災地の宮古を結ぶ路線、震災7日後に、宮古と東京を結ぶ路線を復旧</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>みちのりグループで計7路線を新設                     <ul style="list-style-type: none"> <li>郡山⇄那須塩原、相馬⇄仙台、郡山⇄盛岡、伊達⇄仙台、笠間⇄秋葉原、盛岡南⇄東京(昼行)、盛岡⇄秋田空港</li> </ul> </li> <li>復旧路線、新規路線併せて、ピーク時には1日あたり最大106台(福島64台/日、茨城17台/日、岩手25台/日)を増発して対応</li> </ul> |
| 乗合バス | <ul style="list-style-type: none"> <li>福島交通では、震災後1日もバスを止めることなく運行</li> <li>茨城交通・岩手県北自動車も震災3日後には、ダイヤは異なるものの、ほぼ通常通りに復旧</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>みちのりグループで計14路線を新設                     <ul style="list-style-type: none"> <li>福島-相馬、二本松-郡山、新白河-須賀川、二本松-福島、友部-笠間、水戸-常陸太田、水戸-大子、水戸-勝田-日立、水戸-大みか、大子-常陸大宮他</li> </ul> </li> <li>被災地間(山田町・大槌町)を結ぶ無料バス運行(3/20~3/31)</li> </ul>        |



福島駅東口バス乗り場  
出所: 福島民報(3月21日)



被災後初めて宮古方面に向けて乗り込む乗客  
出所: 盛岡タイムス(3月17日)



秋葉原駅の臨時乗り場の様子  
(3月29日)



宮古行の出発を待つ品川の乗り場の様子  
(3月22日)

- ◆ 一時帰宅者の避難所と中継基地間の輸送、コールセンター業務、宿泊手配等、オペレーションに係わるエージェント業務を福島交通グループとして受注

## 福島交通グループの取組み

- 5月に一時帰宅コールセンターを立ち上げ、自治体住民につき「一時帰宅」「車持出し」の連絡・確認、バス輸送、物資管理を担う
  - 南相馬市・富岡市・浪江町・双葉町・大熊町・楡葉町の1市5町が対象
- バス延べ1,024台の運行をコントロール。バス乗車人員約20,000名、住民確認についてはバス乗車人員の倍以上の住民(約40,000名以上)に対して中継基地までの移動手段等の確認・案内を電話連絡



出所:47NEWS一時帰宅で予行演習 警戒区域に入るバス



出所:サンスポ(2011年5月4日)放射線防護服着用で一時帰宅予行

## 主な取組み

### ■個人ボランティア

- ・岩手県北観光では、5月より週1回以上のペースで東京発着のボランティアライナーを実施
  - 1月末で参加者数は1,500名を突破
  - リピーター多数
- ・茨城交通は、岩手県北自動車と協働し、リレーボランティアバスを催行

### ■企業・団体派遣型ボランティア

- ・大口先の一例：
  - 震災復興組織による企業派遣型ボランティアプログラムにつき、岩手県北観光・福島交通観光の2社が担当。同プログラムには大手上場企業数十社が参加。約700名の社員が参加した
  - 末日聖徒イエス・キリスト教会による岩手・宮城へのボランティア派遣は大手旅行代理店を含む6社によるコンペで、岩手県北観光が獲得。7月から10月末までの申込者数は1,600人を越えた

### 【主催型】



岩手県北観光ブログより抜粋「ボランティアライナー参加者の様子」

### 【手配型】



福島交通撮影「企業団体：東京地区出発直前の様子」

末日聖徒イエス・キリスト教会提供「ヘルピングハンズの活動」



- ◆ ユニセフ第2弾として、「おもいっきり！そとあそびプロジェクト」を福島交通・福島交通観光が、ゴールデンウィーク明けより実施

## 福島交通グループの取組み

- 原発問題に苦しむ中、子供たちが安心して、おもいっきりあそべる場所に定期的に連れてゆくプロジェクト
- 5月末より福島市内の幼稚園・保育園で始まり、7月からは伊達市・二本松市・郡山市・本宮地区に拡大
- 参加園数延べ227園。参加人数延べ（大人・子供）32,000人、バス稼動761台となった
- 10月～11月にかけて秋の「そとあそびプロジェクト」として再開予定

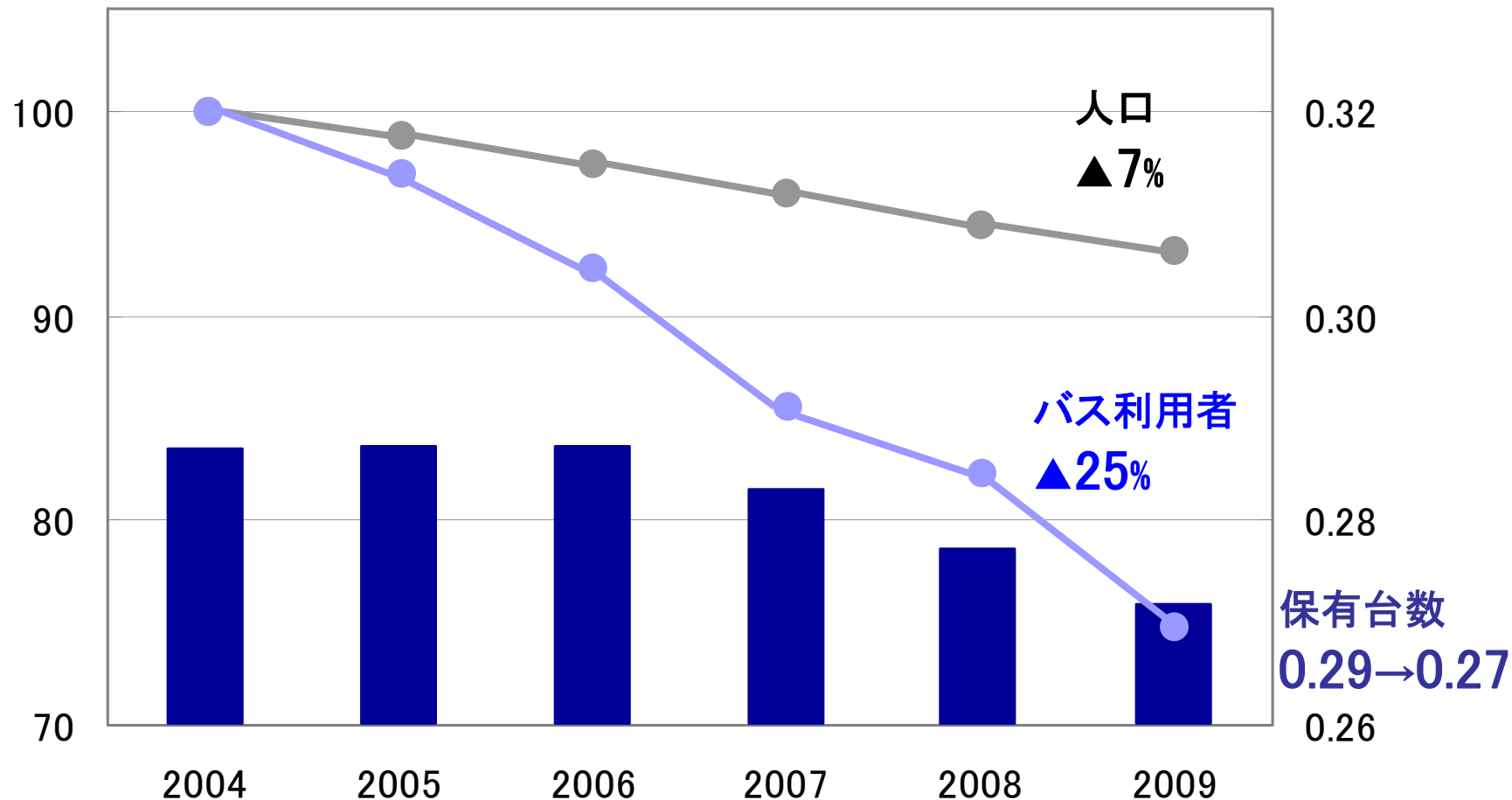


出所：日本ユニセフ協会  
ユニセフ『おもいっきり！そとあそび』プロジェクト スタート【2011年5月16日 福島発】

# 被災地A市(人口6万人)における過去5年間の推移

人口(%)  
バス利用者(%)

市民1人当り  
車両保有台数





1日当り  
輸送人員

|           |       |          |     |
|-----------|-------|----------|-----|
| 江ノ島電鉄     | 10km  | 約 39,000 | 人/日 |
| 飯坂線(福島交通) | 9km   | 約 7,000  | 人/日 |
| 三陸鉄道      | 108km | 約 2,800  | 人/日 |



みちのりホールディングスは、  
地域と共に走り続けます

[アクセス](#) [プライバシーポリシー](#) [利用規約](#) [お問合せ](#)

[HOME](#)

[メッセージ](#)

[ビジョン](#)

[広域連携](#)

[グループ会社](#)

[会社概要](#)

[お知らせ](#)

## ビジョン

公共交通ネットワークの最適化

地域の観光産業への参画と貢献

環境適応型の新しい交通システムの確立

## 環境適応型の 新しい交通システムの確立

地球環境にやさしい社会システムを構想する場合に、交通システムの環境適応性を無視して語ることは出来ません。事業から生じるキャッシュフローの一部を安定的に新たな設備の調達に振り向け、環境適応性の向上を続けることが私たちの基本方針です。また、供給サイドの技術開発の動向などにもよりますが、低炭素型バスを導入したり、自治体等との協働を通じてBRT(Bus Rapid Transit=次世代型バス交通システム)の運行事業に進出したりすることによって低炭素型社会の実現をサポートすることを私たちの将来の姿として思い描いています。

